

病虫害発生予察指導情報

(トマト黄化葉巻病・TYLCV)

令和2年7月31日
鳥取県病虫害防除所

1 情報の内容

県中部（園芸試験場）の施設栽培ミニトマトにおいて、トマト黄化葉巻病の発生を確認しました。県中部地域では初確認となります。本病が発生した場合、早期対策（コナジラミ類の防除、被害株の抜き取り処分等）が重要です。

2 発生の経過

- (1) 県内では、県西部で初確認（平成31年1月21日付け平成30年度病虫害予察情報・特殊報第1号）したが、その後の発生は認められていない。
- (2) 今回発生したハウスでは、生長点付近に縮葉等が観察されたことから、7月22日にPCRによる検定を行った結果、トマト黄化葉巻ウイルスが検出され、本症状をトマト黄化葉巻病と診断した。
- (3) 本病の確認後、直ちに防除対策（コナジラミ類対象に薬剤防除、被害株の抜き取り・処分）を実施した。
- (4) 当該ハウスに定植した苗は自家育苗であり、感染経路については不明である。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 平成30年度病虫害予察情報・特殊報第1号（平成31年1月21日付け）を参照のこと。
- (2) 防除薬剤は、表のとおり。

表 コナジラミ類の防除薬剤*一覧（トマト・ミニトマト）

RAC コード	系統	成分名**	商品名	希釈倍数 使用量	使用 時期	本剤の 使用回数
I:4C	スルホキ シイミン	スルホキサフロル	トランスフォームフ ロアブル	1,000～2,000 倍	収穫前日まで	2回 以内
I:4A	ネオニコ チノイド	ジノテフラン	アルバリン/スター クル顆粒水溶剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで	2回 以内
				100 倍	鉢上時又は定 植時	1回
			アルバリン/スター クル粒剤	培土 1L 当り 10g	は種前	1回
				1～2g/株	育苗期	1回
				1～2g/株	定植時	1回
				1g/株	生育期 但し、 収穫前日まで	2回 以内
		ニテンピラム	ベストガード水溶剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで	3回 以内
				5g/培土L	は種時又は鉢 上げ時	1回
			ベストガード粒剤	1～2g/株	育苗期	1回
				セル成型育苗トレイ 1箱 またはペーパーポット 1 冊(30×60cm、使用土壌 約 1.5～4L)当り 50g	育苗期後半	1回
I:4A、 I:28	ネオニコ チノイド、 ジアミド	シアントラニリブ ロール、チアメト キサム	ミネクトデュオ粒剤	6g/培土L	鉢上げ時	1回
				2g/株	鉢上げ時～育 苗期後半	1回
I:28	ジアミド	シアントラニリブ ロール	プリロソソ粒剤	2g/株	鉢上げ時	1回
				2g/株	育苗期後半～ 定植時	1回
			ベネビア OD	2,000 倍	収穫前日まで	3回 以内
			ベリマーク SC	400 株当り 25mL	育苗期後半～ 定植当日	1回
I:5	スピノシ ン	スピネトラム	ディアナ SC	2,500 倍	収穫前日まで	2回 以内
I:6	マクロラ イト***	レピメクチン	アニキ乳剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで	3回 以内
I:9B	その他	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	収穫前日まで	3回 以内
I:23	環状ケト エノール	スピロテトラマト	モベントフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで	3回 以内
I:30	イソオキ サゾリン	フルキサメタミド	グレース乳剤	2,000 倍	収穫前日まで	2回 以内

* 登録内容は令和2年7月27日現在

** 同一成分を含む商品を使用する場合は、成分ごとの農薬の総使用回数を必ず確認すること

*** トマトには同系統で成分名アバメクチン（商品名：アグリメック、希釈倍数：500～1,000 倍、使用時期：収穫前日まで、本剤の使用回数：3回以内）もある。